

不祥事根絶に向けた取組について

つくば市立荃崎第一小学校長 小澤 光幸

教職員による不祥事は、学校教育への信頼を著しく低下させる原因となっており、なんとしても根絶しなければなりません。そこで、本校では不祥事根絶に向けたコンプライアンスと厳正な校務執行のため、教職員の意識改革や職場風土の改革をし、下記のように取り組んでいます。

1 不祥事防止のための「3つの目標」

(1) 教職員として、仕事に対する誇りを高める

教職員という職に求められる倫理観を醸成し、日常から全体の奉仕者である公務員として相応しい行動ができるようにする。

(2) 当事者意識をもつ

「自分も不祥事を起こし得る」という意識と、「自分の職場から不祥事を起こさせない」という意識を醸成し、不祥事防止に向けた具体的な行動ができるようにする。

(3) 不祥事防止に必要な知識を得る

不祥事に関する知識を得ることで、不祥事を「しない」「させない」ために適切な行動ができるようにする。

2 不祥事根絶をテーマとした職員参加型の校内研修を計画的・定期的を実施

- ・不祥事には、わいせつ、セクハラ、体罰、公金の不適切な処理、飲酒運転、情報漏洩、交通事故等々多岐にわたります。これらの各事案について、職員研修でグループ討議やロールプレイング等の手法を取り入れるなど具体的な防止策を互いに提案し、職員研修に位置付け、計画的に実践しています。
- ・教職員としての自覚と責任感をもち、法令遵守の徹底と倫理観の保持に努める。
- ・情報モラルの向上や節度ある飲酒など、規範意識や自制心を育てる。

3 各不祥事チェックリストを作成し、職員が定期的に点検

- ・不祥事の原因は何か。また、自分の行動や意識に問題は無いかなどを明確に把握する必要があり、これらを職員が自分自身でチェックし自己啓発をすることが重要であり、チェックリストを活用し、定期的に点検する。

4 不祥事関連の通知文や記事等を利用し様々な事例を職員全体で共有

- ・不祥事の内容と対象職員の処分内容等について、県教委や市教委からの通知文や新聞記事等から、それを職員が自分自身や自校の問題に置き換えて考え、自分事として具体的な防止策を職員会議や職員研修で考え話し合う。

5 管理職による職員との個人面談を重視し、悩み等の解決のための支援を行う

- ・職員のストレスや個人的な悩みが不祥事の遠因にならないよう、管理職が教員評価面談や日頃の面談を通して、解決法を助言し、相談にのるなどきめ細かに職員を支援し、悩みを一人で抱え込まない、気軽に相談できる風通しの良い職場風土を構築する。